

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。**応募用紙・補足資料に個人情報に記載しないようご注意ください。**

1. 応募者概要

氏名または団体名	(カズー) KAZOO		
代表者の役職・氏名 (団体の場合)	(ふりがな: だいひょう はった まさや) (役職) (氏名) 代表 八田 雅也	会員数 (団体の場合)	(令和3年 月現在) 名
ホームページアドレス	https://kazoo8.com	活動開始年月	昭和・平成・令和30年 4月
活動分野 (複数選択可)	① 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 4 3R ⑤ 環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他 ()		
環境に関する主な活動内容 (審査対象となる環境活動・取組を箇条書きで記入。行を適宜追加して下さい)	環境に関する主な活動内容 (例) □□の美化・清掃活動、○○の生き物調査、植樹活動、△△の環境教育、食品ロス削減、地産地消 など	※ (もし該当がある場合は、SDGsの目標番号を記入してください)	
	・小学生対象 海洋ゴミ問題の理解深化	14	
	・海洋ゴミのリサイクル (芸術作品として再生)	14	
	・地方の港町への興味喚起	11	
	・地域連携による情報交流	17	
活動地域 (複数選択可)	① 横浜市 (磯子) 区 2 横浜市全域 ③ その他 (愛媛県伊方町、広島県竹原市、和歌山県和歌山市 (加太)、山形県鶴岡市、東京都町田市)		
活動の目的やねらい	横浜の子どもたちに「海ゴミ問題に直面している地域の生の声、を伝えること。 危機啓発ではなく、子どもたちが楽しみながら学べる形を作ること。 それらを通して、横浜の子どもたちが海の環境に興味を持つきっかけをつくること。		
過去に受けた表彰および受賞年度	(例) 横浜□□賞 (平成○年度) 特になし		

※SDGs (持続可能な開発目標) を達成するための活動の中で、環境の保全や環境教育など、環境に関する活動は応募対象となるため、参考までに御記入いただくものです。該当しない場合は記入不要です。

2 最近3年間の主な活動

※「1 応募者概要」の「環境に関する主な活動内容」について、最近3年間の主な活動内容を記入してください。

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
令和元年度	親子 de ブイアート (横浜市磯子区) — (横浜以外の地域) 全国連携ブイアートプロジェクト ブイアートワークショップ (愛媛、竹原、和歌山、山形)	参加者 16組 32名 参加者 576名	横浜市：はまぎんこども宇宙科学館（横浜科学館）において、親子で参加するブイアートワークショップ「親子 de ブイアート」を開催。 連携地域でブイアートワークショップを開催 ※各地の視察と情報交換 愛媛：二つの小学校でブイをペイントするワークショップ 広島：たけはら海の駅でのイベントでブイアートブース出展。パネル展示とブイにシールを貼る「ブイアート体験」 和歌山：連携各地の観光協会及びまちづくり活動を行う組織のメンバー（愛媛、広島、兵庫、和歌山、山形）が集まり、大人のブイアート体験会と各地の環境及びまちづくりについての情報交換会の実施 山形：地元小学生を対象に海に漂着ブイを拾いに行き、下地を塗り、ペンキでペイントするブイアートワークショップ（全3回）を実施。
令和2年度	SDGs ワークショップ「おうち de ブイアート」 (配信横浜市磯子区) & 「おうち de ブイアートコンテスト」	視聴数 344名	横浜市（オンライン）： コロナ禍に合わせたイベントとして、はまぎんこども宇宙科学館（横浜科学館）を配信拠点としたオンラインプログラムを実施。告知は主に洋光台サイエンスクラブ会員と会場（科学館）でのチラシ配布。 愛媛県の高校生による SDGs 講座、連携各地のまちづくり団体による海のお話、ブイアーティストのブイアート講座などを zoom で地域連携する形で実施。配信後にはブイアートコンテストの募集を行い、連携各地の魅力が伝わる賞品を目指したコンテストをオンライン上で開催。
令和3年度	子どもを対象としたイベント — (横浜以外の地域) 親子 de ブイアート in 南町田グランベリーパーク	参加者 11組 25名	令和3年度度は、横浜での開催予定なし（令和4年度に向けて調整中） 南町田グランベリーパーク内で親子を対象にブイアートワークショップ開催。全国の海のお話、紙芝居「ブイの大冒険」、ブイアート制作、各地のブイアート展はと海のゴミ問題啓発パネル展示も実施。ミニコーナーでシールを貼るブイアートブースも設置。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり		
学校との関わり	<p>おうち de ブイアート チラシ配布</p> <hr/> <p>全国連携ブイアート プロジェクト ブイアートワークシ ョップ</p>	<p>横浜市立駒林小学校放課後キッズクラブでおうち de ブイアート配信告知のチラシを配布</p> <hr/> <p>愛媛県伊方町 三崎小学校、大久小学校で開催 山形県鶴岡市 鼠ヶ関小学校で開催 ※各地のまちづくり団体の協力で実施。</p>
他の市民団体との関わり	ブイアートイベント全般	<p>漂着ブイの収集には愛媛県佐田岬一風堂及び一般社団法人 E.C オーションズの協力。その他以下の団体メンバーの協力で配信及び告知を実施。また、2020 年以降は全てのイベントで後援名義（横浜市以外の地域）をいただいています。※2020 年は横浜市の補助金で実施。</p> <p>広島県竹原市：株式会社いいね竹原 和歌山県：加太観光協会、一般社団法人和歌山市観光協会 兵庫県：一般社団法人地域と暮らし創生研究所 山形県：NPO 法人自然体験温海コーディネット</p>
企業等との関わり	親子 de ブイアート 共催協力	南町田グランベリーパークでの「親子 de ブイアート」共催（協賛）。株式会社コングレの協力で実現。
行政との関わり	<p>おうち de ブイアート （配信）及びおうち de ブイアートコンテ スト</p> <hr/> <p>親子 de ブイアート 共催協力</p> <hr/> <p>ブイアートイベント 全般</p>	<p>2020 年横浜市映像配信支援プログラム（※）からの補助金で実施（横浜市文化観光局文化振興課） ※市内文化施設を利用して映像コンテンツを制作・配信する取組の支援</p> <hr/> <p>はまぎんこども宇宙科学館での「親子 de ブイアート」共催協力</p> <hr/> <p>後援名義（横浜市以外の地域） 伊方町（愛媛県）、鶴岡市（山形県）</p>
その他、環境以外の分野との関わり		

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

全国連携バイアートプロジェクトは、日本各地のまちづくりの中心で活動する人たちとの共感で生まれた海洋ゴミに対する危機啓発を目的としたプロジェクトです。

横浜を拠点に、子どもたちが海の環境について考えるきっかけづくりを目的として活動しています。

■きっかけ

2016年、17年の2年間、日本財団と内閣府のプロジェクト海と日本プロジェクト内の企画「恋する灯台プロジェクト」で全国28箇所の港町をまちづくりワークショップ講師として回り、各地できれいな海を守るために活動する人たちとつながりました。

多くの港町では今、海ごみ問題が大きな課題になっています。

特に小さな町の人があまり行かないような海岸には、海流に乗って漂着したゴミが大量に溜まっています。

それは、地元の人たちが出したものではなく、別の場所から流れ着いたものがほとんどです。

海ゴミ問題の解決には、港町の人たちだけではなく、他の地域の人たちの協力が必要です。しかし、潤沢な予算がある訳ではない小さな町からのメッセージを都市部で伝えるのは容易ではありません。

小さな港町が抱えている日本の問題を解決するために、首都圏に拠点を置いて活動をしている自分に関われる形があるのではないかとこの想いで声かけを行い、この全国連携が生まれました。

■バイアートをテーマとしている理由

海の環境についての啓発を行うにあたり、単なる危機啓発ではなく、みんなが興味を持ってくれる形を考えた時、自身の体験から各地を回った際にたくさんのバイアートを目にしていてを思い出しました。

申し合わせた訳ではなく、自然発生的に各地の絵心のある人たちが海岸から拾ってきたブイをペイントして看板やモニュメントとして飾っていたのです。

- ・既に各地にある物を活用する形なら、各地の人たちも協力しやすい点
- ・危機啓発メインではなく、海洋ゴミを楽しい創作活動の素材として活用（リサイクル）する形が作れる点
- ・協力者の一人が既にバイアートを制作していた点

が根拠となり、「全国連携バイアートプロジェクト」を立ち上げることになりました。

■大切にしていること

地域を超えて「きれいな海を守りたい」という気持ちを様々な人に知ってもらい、日本中の人たちが海の環境を自分事として捉えられるようにという想いが活動の軸です。

子どもたちが対象のイベントが多いですが、「今現在の海の環境悪化は子どもたちには責任はない。我々大人の責任で何とかするべき課題である」という港町の方々の想いを大切にしています。

■横浜への想い

横浜での活動は主に情報の伝達です。横浜の子どもたちが海は繋がっていることを知り、きれいな海を守るために何ができるかを考えるきっかけをつくることで、各地の環境問題の改善につながると考えています。

そのために、日本各地にはこんなに素晴らしい場所があることを知り、そんな素晴らしい場所を後世に残すために日々活動する人たちの想いを伝えることで、海の環境について興味を持つきっかけを作っていきたいと考えています。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

▼横浜にどのようになって欲しいのか(目標・ねらい)

横浜には、文化や情報の交流、発信地として、都道府県を超えた情報が集約、発信される場所になって欲しいと考えています。環境のことについても、横浜からの発信で地方との連携の輪が広がっていく形を目指しています。

▼横浜で実施した手応え、反応(成果)

洋光台サイエンスクラブの会員の皆様は、学習意欲も高く、満足度の高いイベントになりました。科学館のスタッフの方々からも、通常のイベントに比べて盛り上がったという声をいただきました。

オンラインでの配信企画では、配信後のWEB上でのコンテストに多数の応募がありました。

コロナ禍で外に出られない状況の中、遠く離れた海のことを現地から中継したことを含め、環境についてとてもためになる内容だったという感想もいただき、併せて漂着ブイを手にとって海のことを考えながらも創作活動として楽しむことができたという声をいただきました。

■活動の目標・ねらい

活動の目標・ねらいは、単なる啓発ではなく、「きれいな海を守るために何ができるか？」を楽しみながら考える機会を創出することです。

主に親子イベントは、下記の三つの構成になっています。

1. 日本全国のいろんな海のお話

→全国の港町を回ってきたこと、同じ海でも色んな海があるということ、今ゴミの問題が起きている。そのために活動する人たちがいるということ。海はみんなと繋がっていることをスライドで伝えます。

2. 紙芝居「ブイの大冒険」

→ブイは頑丈です。長い漂流の中でいろんな経験をしてきたはず。渡鳥に出会ったり、魚たちと話したり、他の海洋ゴミとも出会ってきたかもしれません。そんな大海原での大冒険を紙芝居にして伝えることで、海の問題を楽しみながら知る機会を創出します。

3. ブイアートに挑戦

→素材となる漂着ブイを使ってアート作品を作ります。

ささくれがあったり耳が欠けていたり、漂着ブイから海のことを想像しながら創作活動に挑戦します。

※素材のブイは、港町の人たちが海岸で収拾、洗浄、研磨とコーティングなどアート素材としての加工をした上で会場に送付してもらいます。

その他、展示も行います。

展示 1: 全国のブイアーティストたちが作ったブイアート作品展示

展示 2: 海の問題についてや、なぜブイアートが立ち上がったのかなどの情報が掲載されたパネル展示

展示 3: 港町のパンフレットなど、みんなに知ってもらいたい連携エリアの情報

■成果

海について興味を持っていただけることはもちろんですが、一番の成果は親子イベントの際の保護者の方々の感想です。特に小学 3 年生以上のお子さまと参加する保護者の方々からは「久しぶりに子どもと一緒に何かを一生懸命作る体験ができました。」という声をたくさんいただきます。

ブイアートは小学生にとっては親子での協力が必要なちょうど良い難易度になっています。
小学3年生あたりからは親子イベントでも保護者は子どもの活動を見守るだけのことが多く、手を貸すことはあまりないそうです。ブイは直径30cmと意外に大きく、曲面へのペイントという点からも、ある程度計画的に進めないと時間内に完成しません。最終的にお子さまのイメージを完成させるには保護者の方の協力が必須になるため、保護者の方も創作活動に真剣に取り組まれています。
結果として、とても良い思い出になったと言っただけのことが多く、またできた作品は共同制作の成果としてとても大切にお持ち帰りいただいています。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（冒頭の「応募について」ページにて、「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

6 今後の活動方針

■ブイアートについて

これまで様々なパターンでイベントを実施してきました。

最初は補助金での事例作りが中心でしたが、今年は企業協賛での開催も実現しました。

今後は最も好評をいただいている親子イベントを中心に活動を継続していきたいと考えています。

2020年には神戸での大きなイベント予定が新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、少しずつ情報が広がり、来年は南町田でのリピート開催や名古屋などでの開催相談も進んでいます。

今後は連携エリアの拡大も視野に入れ、企業のSDGs企画などでの活用など、事業として形を作っていければと考えています。

■令和4年度の予定

夏に向けて横浜科学館での開催、及び横浜市内の小学校を対象に、「放課後キッズクラブ」でのブイアートイベント開催提案準備中

■今後の活動について（横浜での活動予定について）

私の活動拠点は横浜ですが、このブイアートの活動は、地方の生の情報を横浜の子どもたちに伝えることが大切なポイントになっています。

つまり、各地での活動は情報のインプットであり、横浜を中心とした首都圏がアウトプットの間です。

横浜が日本各地の海の環境や港町の活動についての情報が集まる場所になることで、首都圏にいらながらも全国の生の情報に触れる子どもたちを増やすことができます。

そのため、横浜だけで完結するのではなく、より多くの地域との連携の輪を広げていくことが、横浜への貢献につながると考えています。

今後は、これまで積み重ねてきた経験をもとに、横浜の子どもたちに対して海について考えるワークショップの開催を行いながら、横浜をさらに多くの情報が集まる場所にするために連携ネットワークを拡大するための活動を続けていきます。

「横浜環境活動賞」のような場所でたくさんの人たちに知っていただくことで、より活動を活性化させていきたいと考えています。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

最大のPRポイントは、

「きれいな海を守りたい」という「想い」で繋がった、地域を超えた活動を
横浜中心で行っていること

です。

海は繋がっています。

海の環境問題は、地方の港町だけの問題ではありませんし、
横浜の海だけをきれいにすることもできません。

海は日本にとってとても大切な資源だからこそ、
海の環境を守るためには地域を超えた連携が必要なのです。

環境や状況が違って、海を大切にすることは同じです。

地域に関わらず、強い想いを持って活動する人たちの生の声を伝え続けることで、
日本中の人たちが少しだけでも海の環境に興味を持つ形を目指しています。

横浜は歴史的にも文化や情報が交わる場所だからこそ
地域を超えた連携を呼びかけるに相応しい場所だと考えています。

横浜の環境に特化した活動ではありませんが、
他府県と連携した環境活動のリーダーシップを横浜市民が取っている点を、
評価いただければ幸いです。



全国連携ブイアートプロジェクト

参考資料





<https://www.youtube.com/watch?v=A86LXacb-vI>



「全国連携バイアートプロジェクト」は、 未来に向けた海洋汚染の危機啓発プログラムです。

世界規模で削減に向けて動き始めた海洋プラスチックゴミ問題は、2019年6月のG20大阪サミットで中心議題の一つとして取り上げられました。
「全国連携バイアートプロジェクト」は、実際に問題に直面している日本各地の港町と首都圏の連携で、漂着したプラスチックブイをデコレーション。子どもたちを中心に、楽しみながら、きれいな海を守るためにできることを考える機会を創出することで、海洋汚染の危機啓発を展開します。

※連携エリア：愛媛県佐田岬/広島県竹原市/和歌山県加太/山形県鶴岡市 他



ブイの収集（各地の港町）

収集は日本各地の港町で地域のために活動する方々の協力で行います。
各地の海岸に漂着したゴミを収集。その中から選別したプラスチックブイを収集、洗浄したものを首都圏に集約します。

体験

ブイをペイント



各地から送られた漂着ブイをペイント。ブイを素敵に生まれ変わらせながら、海のゴミ問題についての理解を促進します。

展示

バイアートの展示



各地で作られたバイアート作品や、賛同いただいたクリエイターや企業の作品を展示します。

啓発

パネルや講和で啓発



啓発パネルや紙芝居、講和で海の現状やバイアート連携について説明。楽しむだけではなく、未来に向けて何ができるか考える機会を創出します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



11 住み続けられるまちづくりを



14 海の豊かさを守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



ポイントは、子どもたちから大人への啓発を促進する環境づくり。

海を汚してきた大人たちに対し、未来を担う子どもたちが注意喚起をする、子どもたちが主役のプロジェクトです。

1. 環境問題危機啓発への貢献

課題に直面する日本各地の港町から現場の声を届けます

2. 地方創生への貢献

自然に囲まれた各地の魅力、環境に対する各地の取り組みを紹介します
各地で暮らす、現場で問題に直面しながらも精力的に活動する人たちを応援します

世界規模で推進する課題解決の活動に、
「**楽しみながら貢献できる場所づくり**」
を目指します

2018年、ブイアート企画の呼びかけに賛同した4エリアでブイアートイベントを実施しました。

▼広島県竹原市

たけはら海の駅で実施された竹原市政60周年の記念イベント「瀬戸内ぽると」において、地元地域活性化団体いいね竹原としてブース出展。愛媛県佐田岬から送られてきたブイアート作品の展示と、参加者がブイをデコレーションする企画を通して、各地の海の現状と海のゴミ問題に対する啓発を実施しました。



メディア実績：中国新聞等

2018年、ブイアート企画の呼びかけに賛同した4エリアでブイアートイベントを実施しました。

▼愛媛県佐田岬（伊方町）

2つの小学校で、小学校3年生以上を対象としたブイアートワークショップを実施。洗浄、下塗りをしたブイに、マーカーでペイントをする形で4名で1つのブイアートを作成しました。テーマは愛媛県の協力を得て、ゆるキャラの「みきゃん」とし、現地で海岸清掃を行うNPO団体の講話で海のゴミ問題についての啓発活動を行いました。



メディア実績：愛媛新聞、八西CATV等

2018年、ブイアート企画の呼びかけに賛同した4エリアでブイアートイベントを実施しました。

▼山形県温海（鶴岡市）

地元小学校にて、3回に分けてワークショップを実施。1回目は海岸清掃を兼ねてブイを拾いに行き、子どもたちに海の現状を知る機会を提供。2回目は、下塗りを行い、3回目に絵を描きました。テーマは海の生物。講話では全国を回って来てきたたくさんの海の紹介をしながら、海はつながっていること、綺麗な海を守るために今自分たちにできることは何なのかを考える機会を創出しました。



メディア実績：NHK 庄内日報 等

2018年、ブイアート企画の呼びかけに賛同した4エリアでブイアートイベントを実施しました。

▼和歌山県加太（和歌山市）

ブイアートに興味のある各地のイベントの主催となる大人たちが集まり、情報交換。ブイの洗浄、下塗り、絵付けまで、実際にブイアートの制作を体験しながら、イベント実施において必要な情報を交換しました。



2019年、4エリアの協力で横浜市の科学館でブイアートイベントを実施しました。

▼神奈川県横浜市科学館（はまぎんこども宇宙科学館）

各地と連携し、港町の町おこし団体や高校生たちが収集、洗浄、下準備をしたブイを会場へ集め、科学館に来館する親子を対象に、ワークショップを開催。メディアにはあまり出てこない日本の小さな港町の魅力と、港町の人たちが直面する問題について学び、今自分たちができることは何かを考えました。



2020年、オンラインで連携各地と繋がり生の声を届けるブイアートイベントと 自宅でブイアートに挑戦するブイアートコンテストを実施

▼オンライン

はまぎんこども宇宙科学館（横浜科学館）を拠点に、愛媛、広島、和歌山、山形、兵庫の各地をオンラインで繋ぎ、各地の魅力と海の様子について、地域のまちづくり団体の方々が生の声を伝えるイベントを開催。併せて、参加者にブイを送り、自宅でブイアートに挑戦するブイアートコンテストを実施しました。



▲素敵な応募作品



▲連携地域の魅力あふれる賞品

2021年、南町田グランベリーパークで親子イベントを実施しました。

▼東京都町田市（南町田グランベリーパーク）

南町田グランベリーパークにて、「親子deブイアート」を実施しました。

コロナ禍で人数制限のある中での開催でしたが、海のない町では初の開催。

海がなくても海とつながっているというメッセージは十分に伝えられたイベントになりました。

